

経営行動科学学会 中部部会 公開講演会

日時

2016年3月1日 火 午後2時-3時30分

会場

愛知大学 名古屋キャンパス講義棟
L803教室 (名古屋駅より徒歩約12分)・
東京霞が関オフィス(テレビ会議)

<http://www.aichi-u.ac.jp/profile/campus-nagoya.html/>
<http://www.aichi-u.ac.jp/tokyo/>

参加費無料
予約不要

主催

経営行動科学学会中部部会

<http://www.jaas.jp/>

共催

愛知大学経営総合科学研究所
名古屋フルブライト・アソシエーション
日本イーストウェストセンター中部同友会

講演者

白川 英樹

筑波大学名誉教授・日本学士院会員
2000年ノーベル化学賞、文化勲章受賞

講演題目 科学・技術のより深い理解を社会に根付かせるために

要旨

18世紀後半に英国で始まった産業革命以来、とりわけ20世紀に入ってから科学・技術の急速な進歩で、人類は計り知れない恩恵を受けてきた。その一方で深刻な弊害も目立ってきて、科学・技術には功罪の両面性があるという認識が深まった。しかし、「罪」の側面は多様であり、一口に公害と入っても1企業や複数の企業の怠慢による「罪」もあるし、PM2.5などによる深刻な大気汚染は人々の生活の結果生じた弊害と言える。これらの弊害は科学者や技術者の努力で解決する見込みがあり、現に排ガスや排水の処理技術の進歩と普及により、日本ではかなりの成果を挙げるに至っている。その一方で地球温暖化やエネルギー問題は科学者や技術者の努力だけでは、解決は極めて困難であり、ES細胞や遺伝子操作・遺伝子編集、生殖医療研究など

進歩により、生命の倫理やヒトの尊厳が問われる事案も増加してきた。これらの問題を解決するのは科学者や技術者だけでは不可能で、社会全体で考えなければならない。そのためには科学・技術を社会に根付かせる必要がある。

その基本として理科好きの青少年を育てることが大切だが、教養教育の基礎を創る初等・中等教育では理系・文系の区別はあってはならず、大学での教育でも教養教育の大切さは言うまでもない。科学技術の振興には自然科学の教育だけでは駄目で人文科学、社会科学、経済学、更には芸術などの基礎教育も必須である。また、次世代の人材を育てるために最も大切なことは、子どもたちに童心を持ち続けさせることである。偶然から思っても見なかったものごとをうまく見つけ出す能力とされるセレンディピティーについても述べる。

なお、終了約5分前に白川先生と参加者の集合写真を撮り、経営行動科学学会と愛知大学のHPに掲載いたしますので、掲載に都合のよろしい方のみ写真撮影にご参加ください。

司会

星野 靖雄

愛知大学大学院経営学研究科教授・筑波大学名誉教授
IPU (International Pacific University・環太平洋大学) 経営学部教授 (4月1日より)

問い合わせ先 愛知大学大学院経営学研究科 星野靖雄研究室

電話 052-937-8264 または、090-6520-6522 E-mail:hoshino2003@gmail.com

なお、出席の有無にかかわらず、白川先生の講演録を希望される方は、メールにて講演録希望の表題で空メールをお送りくだされば、文字起こし・校正後送付します。

会場案内図

会場：愛知大学 名古屋キャンパス 名古屋市中村区平池町4-60-6

